

テーマ	『支援におけるチーム体制の構築（仕組みと仕掛け）』
-----	---------------------------

1 達成に向けた手立て

- ① 長期目標と短期目標の決定（一人一人のアセスメントの後、目標を決定）
- ② 不登校未然防止委員会をスクリーニング会議とし、（いつ・どこで・誰が・何をしたか）をデータ化し蓄積していく。そのことを通し、認め合い、褒めあえる体制を整えていく。
- ③ ケース会議は応援隊とネーミングし、ケース会議の前にきりりポイントを明確化しておく。
- ④ 多職種協働体制確立のため、ケース会議にはSCやSSWが必ず参加する。

2 取組の成果と課題

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ① 長期目標と短期目標は、SSWが生徒指導提要求をもとに大枠を整理し、アセスメントをもとに一人一人設定したり、学校が設定したりした。 ② 小中連携を月に一回実施し、小学校の授業をSSWが観ることで、個々の課題を明確化することができた。 ③ 不登校未然防止委員会をスクリーニング会議とし、（いつ・どこで・誰が・何をしたか）をデータ化し蓄積した。毎週この会がある前に、このデータ化をしてもらっている。 ④ 先生方をやる気にさせるために、ケース会議ができた。先生方も悩まれているので、先生方のストレンクスを見つけ、元気づけていく。 ⑤ 関係機関と担任をつなぐことができた。 ⑥ ケース会議をするときは、「一緒に考えようね。」と話し、本人や保護者を巻き込んで、自己決定をさせていくことが大事。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 目標が設定できていない学校もあった。そこで生徒指導提要求をもとにまとめたものを情報共有していく。 ② 明確化した課題を担当に伝え、担任を動きやすくするためにはSSWの適切な声掛けが必要。 ③ 不登校未然防止委員会をスクリーニング会議とし、（いつ・どこで・誰が・何をしたか）をデータ化し蓄積しようとしたが、なかなかできにくかった。キーパーソンを巻き込んで継続して取り組めるようにしていく。 ④ 小さな良い変化を見つけることができる教師やSSWになれるよう意識変革していく。 ⑤ 各機関の役割を理解し連携ができるよう支援していく。 ⑥ 児童生徒の意見の代弁者及び伴走者になれるようにする。

3 次年度に向けて

- ① 目標設定を細分化、簡略化し2週間ごとに見取りをし、改善できたところや達成できたところを中心に学校全体に共有し、当該児童生徒に還していく。
- ② 本年度の当該児童生徒の成果と課題を共有し、学校全体として次年度に引き継ぐ。